



英知
誠実
健康

学校だより

若鷹

尾張旭市立旭中学校

令和3年度 7月号

「あの電柱まで 次の電柱まで」

校長 浅野 謙一

梅雨が明け、夏真っ盛りとなりました。4月の入学、進級から約4ヶ月が過ぎました。いよいよ1学期の終業式を迎え、夏休みもすぐ目の前になりました。

さて、6月26日（土）から中総体瀬戸・旭大会が始まり、各種目で熱戦が繰り広げられました。昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大にともない大会は開催されませんでした。卒業した3年生にとっては、とてもつらいことだったと思います。今年も緊急事態宣言が出されるなど開催が危ぶまれましたが、なんとか開催できることとなりました。ただし、参加できるのは試合に出る人たちだけで、試合に参加しない部員、保護者の方たちは、応援するために会場に行くことはできませんでした。しかし、部活動で頑張ってきた人たちにとっては、今までの練習の成果を発揮する大切な大会であることには変わりはありません。特に3年生にとっては、この大会が終わると部活動を引退して、次は自分の将来に向けての活動に邁進することになると思います。

そして、この夏には、新型コロナウイルスの感染拡大にともない延期されていた東京オリンピックが開催されます。東京で開催されるのは2回目になります。1回目は1964年10月で、今から57年前になります。その時、日本代表のマラソン選手の一人として活躍した君原健二さんのエピソードを紹介します。

君原選手は、東京オリンピックで8位、4年後のメキシコオリンピックでは銀メダルに輝くなど、日本を代表するすばらしいマラソン選手でした。さらに、すばらしいことに、君原選手は、引退するまで35回のレースに出場しましたが、その全てのレースにおいて完走したそうです。その君原選手が次のような言葉を残しています。「私は苦しくなると、よくやめたくなるんです。そんな時、あの街角まで、あの電柱まで、あと100メートルだけ走ろう。そう自分に言い聞かせながら走るんです」君原選手は、きつくてきつくて走るのをやめてしまいたいと思った時には、自分の目の前に見える「あの電柱まで」走ろう。そして、その電柱まで来たらその次に見える「あの電柱まで」と自分に言い聞かせて走っていたのだそうです。



この君原選手のエピソードは、大きな目標を達成するためには、それを実現するための小さな目標を掲げ、一つ一つクリアし、積み重ねていくことの大切さを教えてくれています。マラソンに限らず、勉強、部活動などにおいて、つらくて、途中で投げ出してしまうときときには、君原選手の「次の電柱まで」という言葉を思い出してみてください。

活躍！健闘！（中総体瀬戸・尾張旭地区大会結果一覧）

種目		旭中の試合結果	次の大会会場(愛日・県)
水泳	男子	県大会出場:100m・200m バタフライ:中西純貴 200m・400m 個人メドレー:寺田朝陽	7月28日(水)29日(木) 日本ガイシアリーナ競泳プール
	女子	県大会出場:400m メドレーリレー:佐藤結芽、河井里緒、牛場彩乃、緒方愛 400m フリーリレー:佐藤結芽、河井里緒、牛場彩乃、吉田奏来 400m・800m 自由形:緒方愛 100m バタフライ:牛場彩乃	
野球		3位	
ソフトボール		3位 愛日大会出場	7月17日(土)9:30~ 清須市立新川中学校
ソフトテニス	男子	決勝トーナメント進出	7月17日(土) 瀬戸市民公園テニスコート
	女子	3位 愛日大会出場	
サッカー		1位 愛日大会出場	7月18日(日) パークアリーナ小牧サッカーグラウンド
バスケットボール	男子	健闘	
	女子	健闘	
バレーボール	男子	1位 愛日大会出場	7月21日(水)11:30 東郷町総合体育館
	女子	1位 愛日大会出場	7月21日(水)11:30 豊明福祉体育館
卓球	男子	団体:3位 谷口稜太 3位(愛日)	7月18日(日) 北名古屋市総合体育館
	女子	団体:2位 愛日大会出場 後藤知歩 5位(愛日)、植木祐香 5位(愛日)	7月21日(水)団体 アルコ清州 7月24日(土)個人 アルコ清州
剣道	男子	団体:2位 愛日大会出場 森高志 1位(愛日)	7月17日(土)9:10~ 東郷町総合体育館
	女子	団体:1位 愛日大会出場 大平和奏 2位(愛日)、佐原朱音 3位(愛日)、石川菜々子 3位(愛日)	7月17日(土)9:10~ 東郷町総合体育館
柔道		田中大尊(愛日)	7月18日(日) 小牧市南スポーツセンター武道場
陸上 (愛日大会)		女子 100m ハードル:岡本彩里(県大会)	7月24日(土)25日(日) パロマ瑞穂北陸上競技場
吹奏楽 (東尾張大会)		7月26日(月) 瀬戸市文化センター 11:00 旭中演奏	

